

友だち募集中

全厚労公式
LINEでも
ニュース配信中!



全厚労ニュース

全 国 労働組合連合会
厚生連

〒110- 東京都台東区入谷

0013 1-9-5

TEL 03-3874-3591

FAX 03-3874-3593

発行日 毎月20日

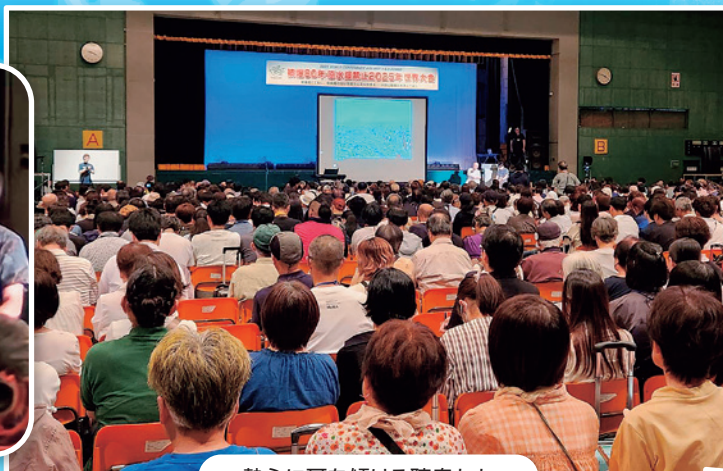
<https://www.zenkouro.org/>

被爆
80年

今こそ体験者の声に耳を傾ける



体験をお話くださる田中熙巳さん



熱心に耳を傾ける聴衆たち

今年の原水爆禁止世界大会は被爆80年であり、広島・長崎の両方で本大会として開催されました。世界大会全体では、のべ1万2930人の参加がありました。

全厚労からは全体総会で64名。オンラインでは6名が参加しました。被爆体験者の生の声を聞く機会は年々貴重になっています。



NHKのニュースにも映りました

大会当日は、天候に全く恵まれず、交通機関の遅延などありましたが、60名を越える全厚労の参加者が長崎に集まりました。

総会では、広島と長崎の原爆の違いや概要、被爆者運動の歴史が説明され、実際に被爆体験をされた方の証言を聞く事が出来ました。

田中熙巳さんは、原爆投下後の4日間について語られました。伯母が大火傷し亡くなられたこと、真っ黒な子供が学校の壁に貼り付いて焼け焦げ、川に何十何百と浮かんでいてみるも耐えられない辛い気持ちだったなど、当時の様子を話して下さいました。

被爆80年を迎えた今でも原爆手帳の交付が拒まれる方もいて、原爆症認定までに数十年闘ったエピソードなども聞く事が出来ました。

悲劇を目の当たりにして心を閉ざし、ようやく戦争体験を語り始めた方もいます。被爆された方々の平均年齢は86歳、生の声を聞けるのもあと少しです。いかに後生に伝え、この悲劇を繰り返さないように行動していくかの大切さを再確認した集会でした。(平和担当 中野 綾)



ずぶぬれになって奉納しました

初めての世界大会に参加して

私は、第1分科会「核兵器禁止条約に参加する日本を〜非核日本キャンペーン〜」に参加しました。

被爆者の証言を聞いて思ったこと。被爆したのにも関わらず、被爆者として認定されない人々がいることに驚きました。

被爆当時10歳だった山本さんの将来の夢が、早く大人になってお国のために命を捧げたいと思っていたと聞き、時代背景を考慮しつつも私は胸が締め付けられる思いがしました。内部被爆し、脱毛したり歯茎から出血したりしているのに国は被爆認定せず、いまだに認定されていない人々がたくさんいます。被爆者と認定されるよう署名や要請活動をされているとのことでした。

海外からも代表発言があり、スペイン、フランスから現地での非核運動について話されていました。また、江戸川原水協や北海道、徳島からも報告があり、活発な討論がありました。



被爆直後の状況に絶句しました

今回初めて原水禁世界大会に参加しましたが、被爆者の証言には本当に悲しく胸が痛みました。分科会では核を持たない運動が世界中に広がっていること、また唯一の被爆国日本なのに禁止条約に参加していない現状を知ることが出来ました。

徳島にも原水協の会があり署名活動等を行っているのでも積極的に参加したいと思いました。わたしたちは日々何気なく生活していますが平和であってこそ、平和でなければこの生活は一変してしまいます。仕事も好きなことも出来ません。労働組合であるわたしたちは平和の運動を継続し、戦争を知らないわたしたちが学習し、次世代にバトンを渡していかなければならないと思います。(女性委員長 楠 潔代)



海外参加者からも平和の訴えがありました

軍艦島上陸クルーズは中止

8月7～9日の大会期間中は大雨の影響で、天候が大いに荒れて空の便に遅延があり大会に間に合わないなど心配が続きました。8月9日の折り鶴奉納は、特に大雨で被爆地公園が浸水している中、全国の皆さんの想いのこもった折鶴タペストリーを奉納することが出来ました。しかし、午後からの独自企画の軍艦島上陸クルーズは運航会社から中止の決定があり、参加予定者は残念がっていました。前回のナガサキ大会も台風の影響で大変だったらしいですが、事故なく終えることができたのがなによりでした。

生産者と労働者の連帯を

第8回中執会議で「米問題」学習会

7月11日、オンライン開催の全厚労第8回中執会議で、全農協労連・星野慧書記次長を講師に、「米不足」と農協・労働組合の課題「生産者、消費者、労働者の視点から」と題して、学習会を行いました。

この学習会は、「令和の米騒動」とも言われる深刻な「米不足」で、農協が悪玉であるかのように報道される中で、私たちが農協労働者の一員として、「米問題の事実」は「本質的問題は何か」を学ぶために急遽、企画・実施したものです。

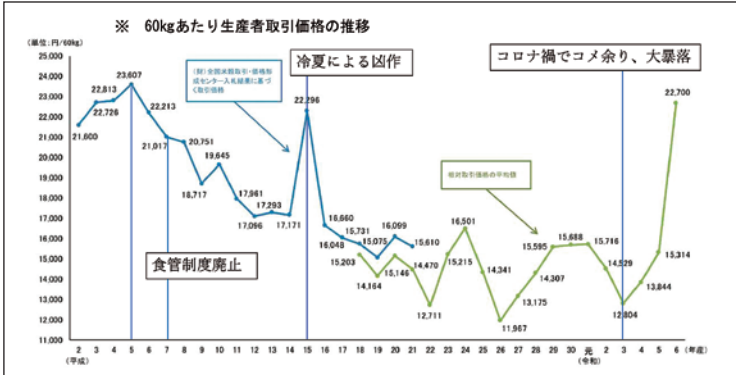
星野さんは、戦中から19

95年まで続いた「食料管理制度」と、2018年に「生産調整」が終わる中で、米の需給調整が完全に「現場の責任」にされてきたこと。コロナ禍の中で需要減により米の大暴落が起き、稲作農家の時給10円と言われるまでになってしまい、見通せない米の需要と過剰な減産により、昨夏からの米不足を招いていることなどを説明。また農協の集荷率が30%台に落ち込むなど、米市場の自由化に伴う米の流通・販売システムへの国民の無理解や、農協と歴代の自民党政治との関わりが、農

協「悪玉」論にも結びついていることを指摘されました。

最後に食料問題の本質的な解決のために、食料の適正価格は、生産者と消費者の視点だけでなく、市場流通のための関連費用・関連労働者の「賃金」など労働者の視点、さらには賃金・購買力の引き上げを求める労働組合の役割が重要だと話されました。暮らし続けられる地域社会のためには、食料は当然のこと、

医療・社会保障切り捨て政策の見直しをしていくことも重要だとエールも送っていただきました。



(図) 年々下がってきていた生産者米価の推移

であい語らい

厳しい道のり、強い気持ちで

俳優 河合優実さん

次代を担う一人として快走しています。デビュー翌年の2020年から22年に17本もの映画に出演し多くの新人賞を受賞。昨年から今年にかけて大ブレイクしています。

ドラマ「不適切にもほどがある!」での昭和のツッパリ高校生役が話題に。映画「ナミビアの砂漠」と「あんのこ」と、それぞれ社会の底辺から這(は)い上がるつともがく難役で主演。リアルな演技が国内外で高く評価されました。



かわい・ゆみ
主な受賞に毎日映画コンクール主演俳優賞・ブルーリボン賞主演女優賞・キネマ旬報ベスト・テン主演女優賞・日本アカデミー賞最優秀主演女優賞(以上「あんのこ」「ナミビアの砂漠」に対して)ほか多数。*舞台「私を探さないで」=10月11日~11月3日、東京・本多劇場。ほか大阪、富山、愛知、広島、岡山公演

もに岩松さんの舞台を経験できること、とても嬉しいです。稽古と本番を通して、ぜいたくな探究の時間を味わい尽くすことが、正直、今いちばんの楽しみではあるのですが、ドラマをもってお客さまとどのように出会いたい、どのように噛み締めたい、そのように自分自身で辿り着かなければ

とも思っています。とても豊かで自由に厳しい道のりになります。強い気持ちで臨もうと思っています」

ドクター山本晴義の心の相談室(14)

「先延ばし癖」への対処方法



山本晴義先生

重要なメールの返信、報告書の作成から始まり、請求書の支払いなど、生活のあらゆる場面で「後でやろう」と先延ばしにしてしまふことはありませんか？

先延ばしによって「今しなくていい」という一時的な安心感が得られます。しかし、できるはずなのに、できなかったということを繰り返すと、信頼感が著しく低下してしまいます。

また、先延ばし癖は、効率性や信頼を求められる仕事の場面においては、キャリア形成の障壁になります。では、そうとわかっていてもなぜ先延ばしをしてしまふのでしょうか。

いろいろな理由はありますが、人間は本能的に難しい、不確実性が高いようなことを繰り返すと、信頼感が著しく低下してしまいます。

に直面すると避けたい傾向があります。だからこそ、一から考えなければならぬ計画書

レンジしないほうがいいという発想から、始めることができせん。こうした問題に対しては、工夫が大事です。例えば、これをしたらアイスを食べてよいなどの報酬を用意する、計画性がないならば、計画できる人と一緒に計画を作ってもらい、課題が退屈に感じてしまふならば、もう一度、この目標を達成したら夢にどれくらい近づけるのかを考えてみましょう。また、完璧主義の人は、完璧にすることよりも前進することに焦点を置き換える練習をしましょう。

福厚労 2025年新人組合員研修会

伝統の寸劇で新人を歓迎

福厚労は7月19日、郡山市「磐梯熱海温泉ホテル華の湯」にて、2025年新人組合員研修会を開催し新人50名、役員・青年委員合わせて81名が参加しました。

研修会は、齋藤文子執行委員長挨拶で始まり、役員や専門部(青年、女性看護、教宣組織)、医労連共済の紹介、佐々木崇書記長の「労働組合ってなに？」と題した75分の学習会が行われました。

また青年部恒例の寸劇「強いぞ?三法マン」では、労働三法がそれぞれ労基法マン、労組法マン、労調法マンのヒーローとして登場し、職場の労働問題を解決するシナリオで、会場を沸かせました。

新人組合員が所属施設を超えて一同に会するのは、この研修会が最初で最後のことで、役員・青年委員の皆さんが奮闘し作り上げた研修会は参加者にとって、とても良い機会になったと思いますし、全厚労青年委員会



「強いぞ?三法マン」の寸劇フィナーレ

「強いぞ?三法マン」では、労働三法がそれぞれ労基法マン、労組法マン、労調法マンのヒーローとして登場し、職場の労働問題を解決するシナリオで、会場を沸かせました。

新人組合員が所属施設を超えて一同に会するのは、この研修会が最初で最後のことで、役員・青年委員の皆さんが奮闘し作り上げた研修会は参加者にとって、とても良い機会になったと思いますし、全厚労青年委員会



アイスブレイクで指相撲



福厚労「わたしの権利手帳」の使い方をレクチャー

でも共有し参考にしたいと考えています。

頑張る仲間

各県

この人

各県・現場で運動に、趣味に、仕事に頑張る人々を紹介するコーナーです。
第208回は北海道・秋田にお願いしました。



北海道 佐藤敬さん

2年の中央副執行委員長を経て、第63回定期大会で中央執行委員長に選出された佐藤敬先生を紹介いたします。旭川・遠軽厚生病院を経て、2009年から旭川厚生病院に勤務し、現在は周産期母子医療センターを支える小児科主任部長として道北地区の周産期医療を担っています。

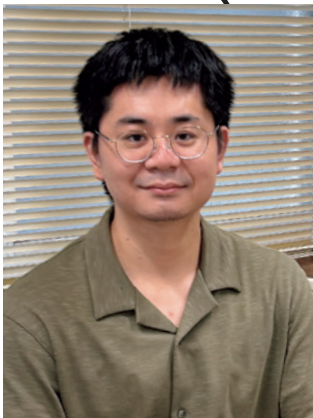
年内の外来予約はすでに埋まっているようですが、何とか調整をつけて札幌開催の会議にも駆けつけてくれています。「趣味は仕事」と笑いながら話してくれた執行委員長ですが、なんと三つ子ちゃん(現在28歳)のお父さん。まだまだ子どもに手がかかると話されていました。

病院の存続が厳しい状況や、労働組合のあり方が問われている中で約半数の中央執行委員が入り替わった新執行部ですが、佐藤執行委員長のもと前執行部から引き継いだ想いを胸に新たな北厚労の活動がスタートします。

秋厚労山本支部で支部長をしている千葉秀平です。

能代厚生医療センターで臨床工学技士として勤務して9年目になります。医療機器管理業務や循環器、透析、内視鏡業務など日々多様な業務に携わっています。毎日忙しい事が多いですが業務に当たる中で、技術や知識の習得や患者さんからの感謝をもらえることに喜びを感じながら頑張っているところです。

組合活動も他の役員と協力しながら取り組んでいます。私事ながら先日入籍したので休日は2人でゆっくり過ごして今後の生活を充実させていきたいです。



秋田 千葉秀平さん

まちかど珍画報
カクイシジュンスケ



公務員、高齢者、非正規…
分断で生活は上向いた？

今月はキーワードクイズ!

【問題】自分たちの主張や、考えていることを簡潔に力強く文章化したもの。労働組合でも大会で決定し、運動を進めるための旗印とする。

答え『ス□ーガン』

紙面をヒントに答え(6文字)を、右QRコードまたは下記あて先へお送りください。

締め切り: 2025年9月末日 消印有効
あて先: 〒110-0013 東京都台東区入谷1-9-5-6F 全厚労 ニュース係

読者の声

暑くなったので、患者さんだけでなく、自分たちも体調管理に十分注意が必要だと思っ
ています。物価高でも冷房など我慢しないように過ごせるように頑張ってほしいです。

(富山)

猛暑でエアコンなしでは健康維持が困難です。医療業界は厳しい状況ですが頑張るって資金アップ目指しましょう。(OG)

選挙特集号気合い入っていますごくいいと思いました!

やっぱり紙面だと隅から隅までよく読めます!そして、改めて、変わらないと諦めず選挙へ行かないといけないと思いました。(長野)

時代の流れの中で少しでも何かを変えていかなければ時代に対応できません。政治もそうですがデジタル号も隅から隅まで読んでやって下さい。(KU)

参議院選挙が終了し、自民公明が過半数を割りました。物価高対策や資金アップなど、これからの日本に期待したいです。(広島)

もちろん我々労働組合がしっかり議員や官僚に訴え続けることが必要ですよ。頑張ろう!(AK)

徳島厚生連で、女性のための生理由ナプキンを各部署に設置してくれました!女性にとっては、バタバタと忙しい仕事中には本当に助かります!心遣いに感謝したいです。(徳島)

ちなみに設置したのは正確には「徳島県厚生連労働組(徳厚労)」ですね。もちろん今後は「会の福利厚生」への要求も検討したらどうかな。(MT)

聞かせて・教えて!のコーナー

☆6月号で募集した「聞かせて・教えて」の結果発表☆

質問1 6月号で一番興味があった面は?

選挙特集号となった6月号で最も票が集まったのは、岩本執行委員長の「連れのうて行こうや!」の呼びかけが目立った1面29票でした。次いで、公開質問状の回答2面14票、政党からの回答と定番面3面が16票、争点4面7票でした。

質問2 「投票に行くか」の質問に対しては、「必ず行くよ!」の回答が多数46票、次いで「なるべく行く」15票、「たぶん行かない」2票。「その他」2票となりました。総務省は参院選の投票率は58.51%だったと発表。前回参院選(22年)の52.05%から6.46ポイント上昇しました。参院選の投票率が50%台後半に達したのは、民主党政権下で行われた10年以来だそうです。

さて、今回の「聞かせて・教えて!」は

質問1 8月号で一番興味があった面は?

A=1面 B=2面 C=3面 D=4面

質問2 おすすめの「秋」の過ごし方

A=芸術の秋 B=食欲の秋
C=もみじ狩り D=その他

全厚労X
全国の活動を
ポスト中!



読者の声、聞かせて・教えて、クロスワードはすべてQRコードよりスマホから投稿できます。氏名・住所・希望景品(図書カード又はクオカード)は必須事項です。

教宣部の つぶやき

「教皇選挙」観ました。詳しい内容は伏せませんが画面の色使いや構成に迫力があり美しい絵画をずっと見ていくような気分です。良かったので、手を取り合って歩むには「寛容であること」が大切だと感じました。こたわりが強くても、全然寛容ではないかも。ひとまず、すめられたものは何でも食べてみるから始めます(笑)(EN)

原水爆禁止2025年世界大会in長崎

長崎を最後の被爆地に

原水爆禁止2025年世界大会in長崎（詳細1面）に参加した方へA.参加のきっかけ、B.参加しての感想をお聞きしました。被爆80年の長崎は3日間雨でしたが、時折雨がやむ時間もありました。被爆者の体験や、各国の核兵器廃絶運動の報告を聞き、参加者の皆さんと一緒に平和について考えました。

伝えることが大切

高橋 聖子さん

秋厚労北秋支部・助産師

A 私達は以前から原爆や戦争に関心を持ち、いつか長崎や広島を訪れたいと話していました。今回、親子で原水爆世界大会に参加することができ、大変貴重な経験となりました。

B 本やテレビでの知識と違い、実際に被爆遺構をめぐり、長崎大学の資料を目にし、原爆資料館を訪れ、一瞬にして多くの命が失われたこと、その悲惨さをより強く実感しました。そして二度と繰り返してはならないと感じました。



一緒に参加されたお子さんと一緒に

未来のために何ができるか

朝倉 奈々海さん

長厚労こもろ支部
理学療法士

A 今回、原水爆禁止世界大会に参加させて頂いたきっかけは、昨年広島で開催された原水禁に参加したスタッフから、「とても貴重な経験になるから行った方がいいよ」そんな一言からでした。

B 原爆に関しては、テレビや学生時代の授業で学ぶ機会はあったものの、自分にとっては非現実的な出来事

先人が築いた平和を守ろう

高橋 茂時さん

静厚労清水支部
作業療法士

A 今回、この会へ参加をしたきっかけは、組合で平和部を担当しているからです。平和と名前がついている管轄なので原爆について日々考えさせられる事や日本は戦後80年間、一度も戦争をしていない為、平和をこれからも願う一員として参加をさせて頂きました。



写真左・眼鏡橋のハートストーンを持って

この3日間、原爆について学びを深めることができたと、また、全厚労の方々と交流をする機会を頂けたことに感謝申し上げます。

B 今回、貴重な経験をさせて頂きありがとうございます。個人的に被爆地に行くことは今回が初めてで、戦争を経験された方、被爆者の方の話を生で聞き、戦争は改めてしてはいけないと感じました。日本は戦後80年経過した中で一度も戦争が起らず、犯罪率や治安も良く海外と比べると平和ボケをしていると言われるかもしれません。しかし、この当たり前だと思っている平和は先

未来の子どもたちのために

畑中 剛喜さん

三厚労本部・専従・顧問
（元全厚労中央執行委員長）

A 50歳にして初めて原水爆禁止世界大会に参加、その後、平和行進・集会・デモ・国会前行動などの平和活動にこれまで参加してきました。退職が近づき私の平和活動の原点となった原水爆禁止世界大会への最後の参加となりました。

B 広島・長崎に原爆が投下されてから80年、被爆者の平均年齢は86歳となる中、「被爆体験の継承と未来・被爆80年長崎のつどい」と題し特別集会が開催されました。

長崎原爆の実相を被爆者の証言と映像で伝え、長崎被爆者運動の歴史と被爆者

日本政府はアメリカへ付度し、核兵器禁止条約の会議に未だにでていません。しかし、今まで核を落とされた国は日本だけである為、世界に武器を使わない、作らない事を強く訴える必要があると感じました。



遺構めぐり分科会での防空壕にて

全厚労ピースウェーブで平和への想いを「つなぐ」



原水爆禁止世界大会へ向けて全厚労で取り組んでいるピースウェーブ。今年も大きな波を作ることができました。「日本政府に核兵器禁止条約の署名・批准を求める署名」は3,196筆、「大軍拡反対請願署名」は3,064筆が集まり、フラッグリレーは12

組織+本部で100枚の写真が集まりました。全国から集まった折り鶴は、本部書記局でタペストリーと、平和への願いを込めた折り鶴ボックスを作成し、長崎平和公園に隣接する爆心地公園へ奉納しました。

のたたかいを学びました。被爆者の心からの願いは、「核兵器のない平和で公正な世界」の実現であり、今、この時間も命ある限り伝え続けられています。私たちには何が出来るのでしょうか？第1分科会では「禁止条約参加署名」「被爆の実相を広げる」「自治体との共同」について学びました。



大雨のため室内で集合写真を撮影（8月7日 四海桜にて）

ましよう。全国の仲間と再会でき、心がほっとしました。ありがとうございました。